

井手やまぶき相談・支援センターだより

今年もどうぞ
よろしくお願い
致します!



HAPPY NEW YEAR!!



令和7年1月号
京都府立
井手やまぶき支援学校



2025年となりました。昨年は国内外で大きな出来事や変化がたくさん起こった年でしたね。社会の変化にこれから立ち向かわなくてはならない子どもたちにどんな力をつけていくのか、どんな支援が必要なのか…今年も地域と手を繋ぎ、一緒に考え、子どもたちを支えていきたいと考えています。どんな些細なお困りごとも、本センターにお寄せいただくと幸いです。

今月号のおたよりでは、本センターの昨年後半の活動報告をさせていただきます。



やまぶき特別支援連携協議会

井手やまぶき相談・支援センターが事務局となり、行政(就学前)、医療、保健、福祉・労働、教育の各機関が連携し、特別の支援を必要とする全ての児童生徒に対する特別支援教育を総合的に推進するため、意見の聴取及び協議をする場です。井手やまぶき支援学校の開校とともに立ち上がったこの協議会も3年目の節目を迎えました。地域の園所学校の教育ニーズをどのように引き出し受け止めていくのか、という本センターの課題意識も含め、「切れ目なく支援をつなぐための工夫、課題」「早期の気づきから相談や支援につなぐ仕組み」をテーマに、グループに分かれての協議を行いました。各機関からの貴重な情報や御意見の一部を御紹介します。

発達障害が広く知られるようになり、保護者の関心も高まったことで、就学前の相談ケースが年間400件ほどにのぼる。(行政)

放課後等ディサービスで、小・中・高のつながりができるケースもある。(福祉)

出口の課題であるコミュニケーション力をもっと小さい頃から身につけられたら…。(教育)

データや資料はもちろんのこと、人のつながりも重要。(教育)

未就園のお子さんについては、保健と連携している。(教育)

就学前から学校に向けてのスタートカリキュラムがあればいいな。(福祉)

子どもたちの「生活していく力」は社会全体の課題として捉えるべき。(医療)

専門性の高い地域支援センターの存在はありがたい。(教育)

就労支援では、子どもの人となりまで把握するようにしている。(福祉)



冬の研修会

井手やまぶき相談・支援センターでは、昨年度同様、四条畷学園大学リハビリテーション学部の作業療法士、宮嶋愛弓様をお招きし、子どもたちとの関わり方について、保護者の御協力のもと、就学前の2名のお子さんとの個別セッションを通して教えていただく研修会を開催しました。地域の幼稚園、子ども園、保育園からも御参加をいただき、「子どもの興味・関心に合わせた作業療法の視点からのアプローチや支援方法」について学びました。

セッション前のアセスメント資料の読み込み、そこからの子ども像の推察について共有した後、本校から学習室で実際にお子さんと一対一で関わる様子を見せていただきました。初対面のお子さんのニーズを素早く読み取り、要求を引き出しながらの温かいセッションに、慣れない場所での遊びであるにも関わらず、お子さんの顔には楽しそうな笑みが浮かび、体をいっぱいに使って活動する姿が印象的でした。子どもたちと「感覚的コミュニケーション」を取りながら一緒に楽しみ、達成感や成功体験を重ねる中で信頼関係を築いていくことの大切さを実感した研修会となりました。

セッションの後の質疑応答、さまざまな支援グッズの御紹介、参加者と宮嶋 OT との直接のお話など盛りだくさんで、「子どもに合わせた関わり方に感銘を受けた」「ふれあい、やりとりの中で信頼関係を築いていくことが大切だと感じた」「支援の必要な子への初めの受容の大切さを学んだ」といった御感想をいただき、大変得るもの多い研修会となりました。



勉強になったぶー!

